

「米中関係を越えて」：包括的（inclusive）で多元的（pluralistic）なインド太平洋秩序に向けて

菊池 努

米中関係がインド太平洋の将来の国際秩序を決定するという国際問題専門家の予測に反して、この地域は今、包摂的で多元的な地域秩序への過渡期にあり、この地域の多様な国家群も自由で開かれたルールに基づく地域秩序を維持・強化するために重要な役割を果たすことになるであろう。我々の課題は、軍事衝突やその他の大きな混乱なしにこの移行を管理することである。その鍵は、地域諸国の国家の強靱性をさらに高めるための努力を地域社会全体で推進することにある。

国際関係の専門家は、近年の米中間の競争と対立の激化の結果、米中関係を中心としたインド太平洋の国際関係のシナリオが実現するだろうと論じている。そのシナリオとは、中国を主、その他の国々を従とする中国中心の階層的な地域秩序の形成や、米中がそれぞれブロックを形成し、両ブロックが衝突する「米中冷戦」のシナリオである。

どちらのシナリオが実現するかは、米中間の相互作用で決まり、その他の国の役割はかなり限定的であるとされる。米中両国を除くと、インド太平洋諸国は米中のパワーポリティクスの傍観者とみなされている。彼らには米中の権力政治の中で外交的な駆け引きの余地がほとんどなく、米中関係の進展に翻弄される運命にあると描かれている。これらの諸国は、国際関係のプレーヤーではなく、駒として扱われている。

しかし、この地域の歴史と現実をよく見てみると、国際関係の構図は違ってくる。インド太平洋が直面する課題を単純化し、米中関係のみに焦点を当てることは、検討すべき政策の選択肢を狭め、地域秩序の形成に重要な役割を果たす要因を軽視することになる。

米中関係は、この地域の国際関係を規定する重要な要素である。ただ、米国と中国は共に大国であるが、それぞれが内外の弱点と制約を抱えている。米国も中国も単独でインド太平洋地域の秩序を形成し維持する力を欠く。この地域におけるそれぞれの利益を促進するためには、地域諸国の支援と協力が不可欠である。

中国の台頭だけがインド太平洋の国際関係を特徴付けるわけではない。過去数十年間、特に冷戦の終結以降、この地域の国際関係の特徴は、この地域の多くの国が、国際関係においてより大きな役割を果たしうる国力と国家体制を整備し、国家の強靱性を高めたことである。しばしば指摘される、「インド太平洋における力関係の変化」とは、中国の台頭だけを意味するのではない。

この地域には、すでに日本、オーストラリア、ニュージーランド、韓国などの先進民主主義国家があり、国家の近代化に成功している。また、インドネシア、ベトナム、シンガポール、マレーシアなどの ASEAN 諸国は、数十年にわたる経済発展や国家統治構造の発展、そして強靱なナショナリズムに支えられ、直面する内外の課題に取り組む能力を身に付けてきた。様々な内的課題を抱えながらも、東南アジア諸国は ASEAN という地域機関を通じて、大国との関係を管理する外交の経験と技術を蓄積してきた。

かつて南アジアの内向きの巨人であったインドは、地域的・国際的な役割を拡大し、地域の主要国としての地歩を固めている。またインドは安全保障の提供者となる道を歩み始めている。インド洋や南太平洋の島嶼国も、地政学的な立場を生かして独自の対外関係を模索している。

これらの国々の多くは、冷戦時代に大国間の緊張が高まる中で国家建設に取り組んできた。彼らは、長く苦しい闘いの末に獲得した独立と自治を奪いかねない米中主導の秩序という概念に抵抗している。これらの国にとって、主権と領土保全、紛争の平和的解決の原則、法の支配に基づく自由で開かれた秩序は、自国の平和と繁栄に不可欠である。

これらの国々は、「大国の間で選択を迫られたくない」という一見消極的な姿勢の一方で、米中関係の緊張の中で自らの行動の自由を最大限確保しようと、域内・域外の国々と二国間・三国間の様々な経済・政治・安全保障上のパートナーシップ関係を築いてきた。彼らは、大国の権力政治を傍観するだけの弱い存在ではない。この地域の将来の形成に自ら参画しようとしている。インド太平洋地域は貧しく、弱く、近代化が遅れているというイメージは、もはや過去のものである。

しかし、インド太平洋諸国の多くは、依然として様々な国内的制約や困難を抱えている。これらの国々がインド太平洋の国際関係において有意義な役割を果たすためには、国家の強靱性をさらに強化することが不可欠である。これらの国々がそうした課題に取り組み、近代化するのを助ける国際的な支援が必要である。

この地域の国々の間では、インド太平洋諸国の国家の強靱性を強化する必要性が認識されている。米国のインド太平洋戦略の焦点は、この地域の諸国の国家の強靱性を強化することで、国際社会のルールに反する行動や武力による威嚇に屈しない国家群をこの地域に創出することにある。

米国は、インド太平洋における中国の存在を排除しようとしているのではない。中国は政治的、経済的、軍事的にインド太平洋地域に深くかかわっている。貿易、投資、インフラ建設などにおける中国のプレゼンスは年々高まっている。中国のプレゼンスは巨大であり、米国はそれを排除できないことを十分認識している。この現実を受け止めることが、

米国のインド太平洋戦略の大前提である。

かつてのように米国主導の地域秩序を維持・強化しようとするのではなく、米国はこの地域の国々がルールに基づく秩序を維持・強化するために貢献することを期待している。つまり、米国がインド太平洋諸国に期待するのは、中国が国際ルールに反する行動をとるときには毅然と立ち向かい、しかし同時に、中国との関係が決定的に悪化するのを避け、中国との関係を維持できる強さと柔軟性を備えた国家群である。そのためには、これらの諸国の国家の強靱性のさらなる強化が不可欠である。

日本、米国、オーストラリア、インドで構成されるクアッド（QUAD: Quadrilateral Security Dialogue）の課題も、海洋安全保障、経済安全保障、サプライチェーンの強靱性、質の高いインフラ開発などを通じて、この地域の諸国の強靱性を高めようとしている。

インド太平洋諸国の強靱性の向上によって、各国に生まれているナショナリズム（主権、独立、自主に対する強い意識）と相まって、インド太平洋の多様な国家がルールに基づく秩序を維持・強化するプレーヤーとなるであろう。その結果、インド太平洋秩序は、多様な国家が秩序の維持に有意義な役割を果たすようになり、より包括的かつ多元的なものとなるであろう。

このような包摂的で多元的な国際秩序を構築するプロセスにはおそらく数十年という長い時間がかかる。我々は、米中のような大国だけが地域秩序の主体であるという旧態依然とした思考を脱し、転換するインド太平洋秩序の新しい動きを軽視してはなるまい。